



環境保全米通信



工場? で何をやっているの?
わかりますか!

春号

2020年3月発行



JA みやぎ亘理の作業場で撮影

【もくじ】

1 環境保全米を学校で学ぼう!

2 春作業◎環境保全米の栽培が始まるよ!!



みやぎの環境保全米とは?
環境保全米県民会議とは?



みやぎの自然豊かな環境を守るために、農薬・化学肥料を宮城県の標準的使用量(※)の半分以下に減らし、自然と人間の力をあわせておいしいお米作りを行う。それが「みやぎの環境保全米」です。

そんな「みやぎの環境保全米」を広めるため、県内の消費者・生産者・マスコミ・関係機関・団体が一体となり2007年に設立されたのが「みやぎの環境保全米県民会議」です。

※宮城県の標準使用量
化学農薬 17 成分、化学肥料(窒素成分) 7kg/10a

アンケート大募集

応募者プレゼントも!

くわしくは最後のページへ!!

1 環境保全米を学校で学ぼう！

環境にやさしい米づくりについては、昨年の夏号で紹介した学校給食で食べて体験するだけでなく、小学校の授業や副読本などでも行われています。今回の特集は、小学校で行われている「総合的な学習の時間」で、地域の宝として地域の豊かな自然や環境を守りながら栽培されている環境保全米の取り組みを教材に取り上げた、登米市立西郷小学校の授業例の実際と、大崎市で今年の4月1日から、小学校の全児童に配布される、大崎耕土の世界農業遺産・副読本についてとりあげました。

① 総合的な学習の時間で、地域の宝・環境保全米を学んだよ！！

登米市立西郷小学校（小野寺由子校長）は、旧南方町の西に位置し、南に蕪栗沼並びに遊水地を望む高台にあり、水田に囲まれた小学校です。今回は、小学校と交流のあるJAみやぎ登米の南方水稻部会の後藤さんから声を掛けられ、2月10日取材に行ってきました。

児童数は男子10名女子9名の元気な19名（当日は1名欠席）のクラスです。この授業のねらいは、1年間総合的な学習の時間と理科と社会科の時間を使って、日頃意識していなかったり、当たり前だと思っていたりする自分たちの地域にある宝物を調べて、それをみんなに伝えることでした。今日の授業は、今までの学習のまとめの授業でした。教室の壁には、各班で調べたことを模造紙にまとめたポスターや環境や農業のことについてお話を聞いた地域の人々の写真が貼ってありました。

担任の鈴木周一先生が各班から、自分たちが調べてきた宝を発表させて黒板にそのカードを張りました。5つの宝は、鳥、魚、虫、米、牛でした。西郷地区にたくさんの種類がいる鳥、田んぼの水路や蕪栗沼にいる魚やたくさんの生き物、田んぼや水路にいるたくさんの種類の虫、農薬を減らして栽培されている環境保全米、日本一の賞を取った牛といったように、豊かな地域の自然環境、生態系とそこで生産される環境にやさしい米や肥料をつくる肉牛の飼育を地域の宝物だと、今まで調べ学習の成果として子供たちは自信をもって発表しました。

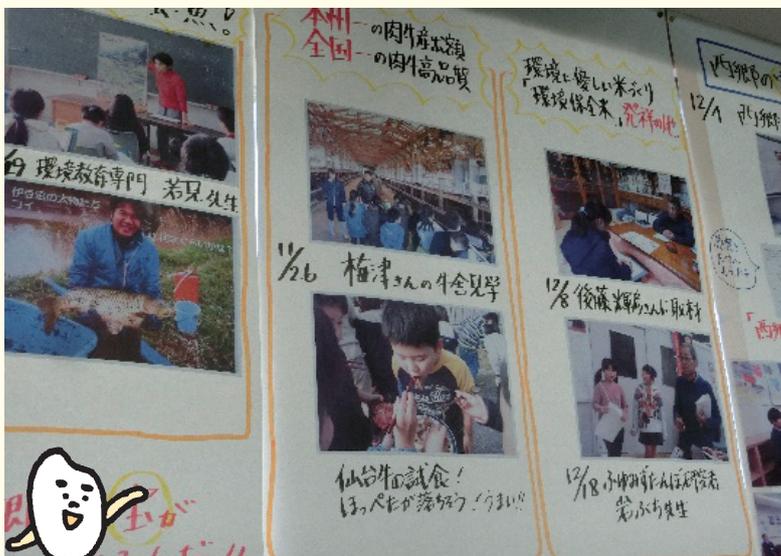
ここで鈴木先生が議論をかき回します。今まで話を聞いてきた環境の専門家や農家の人の言葉を思い出してみようと投げかけます。子供たちは、手を挙げて発表します。環境の専門家の若見さんが、「外来種の生き物を駆除してくれる人がいる」と話していたこと、伊豆沼サンクチュアリセンターの嶋田さんが「環境を良くして、次の世代に渡したい」と話していたこと、牛農家の梅津さんが「いい人ばかりそろっているからおいしい牛ができる」と話していたことを、鈴木先生は黒板に書いてみんなに考えさせました。すると何人から「環境を守っている人が宝だ」という意見が出てきました。子供たちは、



児童の発表カードと鈴木先生の板書

鳥、魚、虫、米、牛も大事な環境だけれど、環境を作り守っている人、環境を守りながらいろんな工夫をしながらお米や牛を作ってくれる西郷の人が宝だということに気づいていました。

子供たちは、自分たちで調べたこと、それをポスターやパネルにまとめたこと、そしてみんなとの話し合いを通じて、今まで漠然としていて当たり前だと思っていた地域の自然環境や農業、畜産業や人々の暮らしが実は宝物なんだということを実感として理解できました。こうした理解が、4月1日から始まる新学期で配られる新しい教科書にある「持続可能な社会をつくること」(SDGs)を進めていくこととなります。



お話を聞いた方々のパネル



② 世界農業遺産の副読本で、環境や農業を学ぶよ！

大崎地域（大崎市、加美町、色麻町、美里町、涌谷町）では、2017年に国連の世界食糧機関（FAO）から「世界農業遺産」を「持続可能な水田農業を支える『大崎耕土』の伝統的な水管理システム」というテーマで認定されました。大崎地域では、世界農業遺産を活用した持続可能な地域社会づくりのために、世界農業遺産が見てわかる野外博物館（フィールドミュージアム）づくり、世界農業遺産地域で生産された農畜産物・加工品をアピールする環境と人にやさしい大崎耕土認証制度、大崎耕土副読本による世界農業遺産学習や持続可能な地域農業の担い手育成の3つの重点活動に取り組んでいます。

令和2年4月1日の新学期から、大崎地位内の1市4町の小学校の児童全員に副読本が配布されます。この副読本は授業ではもちろん、家庭でも読んでもらえるように内容を工夫してあります。

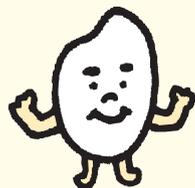
副読本作成に当たっては、教育委員会並びに管内の小学校の先生方11名が担当され、①大崎耕土とは、②農家の仕事、③農業と結びついた食文化や農文化、④先人たちが築いた水管理システム⑤屋敷林「いぐね」による豊かな景観⑥食料の生産地としての重要性⑦自然との共生を目指す大崎耕土の農業⑧、⑨水田や水路、屋敷林「いぐね」がつなぐ大崎耕土⑩多くの生き物を育む水田⑪大崎の宝を未来に残すためにといった内容で構成されています。

特に、⑩の環境にやさしい米づくり（環境保全米）等の認証や「冬水田んぼ」「シナイモツゴ里の米」「鳴子のお米プロジェクト」の取り組みについて紹介され、地域の人や農畜産物を買ってくれる消費者と一緒に地域の宝を残すことの大切さが記述されています。



副読本の表紙

⑩の内容



2 環境保全米の春作業!! 温湯消毒をやっています。



環境保全米の栽培では、お米の籾の消毒に化学農薬を使用しないで、**温湯消毒**や微生物消毒を行っています。温湯消毒って聞いたことがありますか？

温湯消毒は、種籾（たねもみ）を60℃のお湯に10分漬け、さらに17℃の水に4分漬けて消毒する作業です。今回訪問したJAみやぎ亘理では、温湯消毒と念のために微生物消毒も併せて行っているとのことでした。この温湯消毒によって、従来行われている化学農薬での種籾消毒分を減らすことができるのです。表紙のように、JAみやぎ亘理では屋内の米の倉庫の作業場で、行われていました。まるで工場のようなようです。左の写真は、水の冷却層から種籾の入った金網コンテナを取り出

しているところです。右隣の水槽には60℃のお湯が入っており、温湯消毒の後で冷却しているところです。冷却の後、写真の左隅に見える脱水機に、種籾を入れて脱水して、各生産者に配布されて行きます。JAみやぎ亘理の営農センターの磯村さんによると、5kgの袋に種もみを入れて、温湯消毒をしており、1日で約700袋(3.6t)の消毒をして、2月から3月にかけて合計で87tの籾消毒を行うそうです。また、温湯消毒の効果を維持するための秘訣は、温湯消毒した後から育苗作業までの間の種籾の管理にあるそうです。消毒した種もみを床に直接おいて保管したりしなければ、ばか苗※にはならないとのことでした。

※ばか苗：ばか苗病菌は、種子感染するカビの一種で孢子が発芽すると植物ホルモンを分泌し、苗の茎が伸び、多くの場合枯れてしまう稲の病気のこと。

ご感想をお寄せください

アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で、
環境保全米2kgを10名様に

Q1 興味をもった記事は？その理由も。

Q2 環境保全米への疑問や取り上げてほしいテーマ等。

●応募方法

次の項目をご記入の上、FAX・メール・郵送で応募先までお送りください。

・アンケートの回答 ・希望のプレゼント ・お名前 ・年齢 ・ご住所 ・電話(FAX)番号

いただいた回答および個人情報は当法人にて厳重に管理し、プレゼントの発送、または各種情報の提供、イベントの案内以外の目的では使用いたしません。

●応募締切

2020年4月30日 ※抽選結果は発送をもって代えさせていただきます。

●応募先

NPO 法人 環境保全米ネットワーク事務局

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-16-3 JAビル別館 5F

TEL 022-261-7348 FAX 022-261-7488

Email okome@epfnetwork.org

URL <http://www.epfnetwork.org/>

環境保全米

検索

【アンケート記入例】

●アンケートの回答

Q1)-----

Q2)-----

●名前 保全米 太郎

●年齢 40歳

●住所

〒980-0011

宮城県仙台市青葉区上杉

1-16-3

●電話番号

022-261-7348